



L'ORÉAL FOR THE FUTURE

ロレアル・フォー・ザ・フューチャー
2030年に向けた ロレアルのサステナビリティ・コミットメント

2020年は 新たな時代の幕開けです

ロレアルのサステナビリティに向けた旅の新たな段階をはじめるとあって私たちは実績をさらに積み上げていくとともに、飛躍的な前進を目指します。

私たちは、より大きな責任を引き受け、当社のエコシステム全体を巻き込み世界が直面しているさまざまな課題に対して企業が解決策の一翼を担えるということを実証していきます。

これは必要な取り組みです。

なぜなら、私たちは将来の世界への準備を整え、来るべきさまざまな課題を予測しなければならないからです。

この抜本的な変革を通してロレアルが目指すのは、美容・化粧品業界内、さらには業界を超えて、変化を促進させる役割を担うことです。また、ロレアルの消費者およびすべての人々が、共に行動を起こすように、呼びかけ促していくことです。

L'Oréal for the Future.

ロレアル・フォー・ザ・フューチャー



2030年に向けたロレアルのビジョン

私

私たちは今、きわめて重要な節目を迎えています。今後どのような世界に生きたいかを選ぶ時なのです。

2030年へ向けたロレアルのコミットメントは、世界が直面するさまざまな課題に対処するための決定的な新段階の始まりを示しています。

ロレアルのビジネス、美、リーダーとしてのポジション、そして世界におけるプレゼンスを考慮すると、ロレアルの果たし得る貢献は大きいと言わざるを得ません。

ロレアルにとって、これは新しい取り組みではありません。

過去10年にわたって、私たちはバリューチェーン全体における負荷低減のために抜本的な変革を進めてきました。そしてサステナビリティを根本的要件としたうえで、製品の設計・製造の方法を全面的に見直しました。きわめて意欲的な目標を設定しましたが、目標値を超えて達成した項目もあります。私たちは、環境負荷の削減と成長を切り離すことは可能であると、決定的に証明したのです。けれども環境的・社会的な懸念がますます高まる現在、もはやそれだけでは不十分であることがわかっています。

これは緊急事態です。私たちに残された、共に行動するための時間は10年しかありません。

私たちは「ロレアル・フォー・ザ・フューチャー」プログラムを通して、より抜本的な変革を目指します。

なぜ「抜本的」といえるのでしょうか。それは、このコミットメントを通して、当社製品のライフサイクル全体を、人類の存続にとっての唯一可能なシナリオである「地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)」に基づかせていくからです。

このように抜本的な変革を進めるのは、ロレアルグループのバリューチェーンを超えて、グループ外の負荷までを考慮に入れることが私たちの責務だからです。15億人のロレアルの消費者が製品を使用する際の負荷を低減できるよう支援し、消費者がサステナブルな選択を可能にする必要があります。また、サステナビリティへの移行プロセスにおいて、サプライヤーと顧客の力を結集し、破壊的かつ革新的な解決策を共創したいと考えます。真のインパクトをもたらすには、共に取り組むことが不可欠なのです。

また、脆弱な立場に追いやられた女性たちの支援と、緊急の環境問題への対策に1億5,000万ユーロを充当することからも、この変革を抜本的と呼べるでしょう。これら2つのテーマには、ロレアルグループの歴史的な価値観とコミットメントが反映されています。

ロレアルのサステナブルでインクルーシブな革命は、新時代の幕開けを告げるものです。私たちにひとつの野心があります。それは「より美しい未来をすべての人に」というものです。

ジャン- ポール・アゴン

ロレアル会長 兼 最高経営責任者(CEO)

企業責任についての ロレアルのビジョン



「ロレアルがサステナビリティのための第一のプログラムを発表した2013年から、世界は変わりました。私たちが直面するさまざまな課題の規模は今、かつてなく巨大です。私たちの目標は、これらさまざまな課題に沿ったものでなければなりません。良いことをすればよいのではなく、課題解決に必要なことを我々はすべきなのです。」

アレクサンドラ・パルト

最高企業責任者 (CCRO) 兼 ロレアル財団エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント

地球温暖化とさまざまな環境変化は、人類や生物の生息環境を恒久的に劣化させてしまうかもしれません。海面上昇、氷河の融解、海水温の上昇と海水の酸性化、そして異常気象の発生が増えています。危機が増大するにつれ、より強いコミットメントが必要になります。「ロレアル・フォー・ザ・フューチャー」プログラムは、ロレアルが考える企業責任の2つの補完的な側面を具現化したものです。ひとつは、当社のビジネスモデルをさらにサステナブルのものとするためにロレアル自身を変革すること、そしてもうひとつは、世界が直面するさまざまな課題の解決に貢献することです。

“地球の限界”に配慮するための ロレアルの事業活動の変革

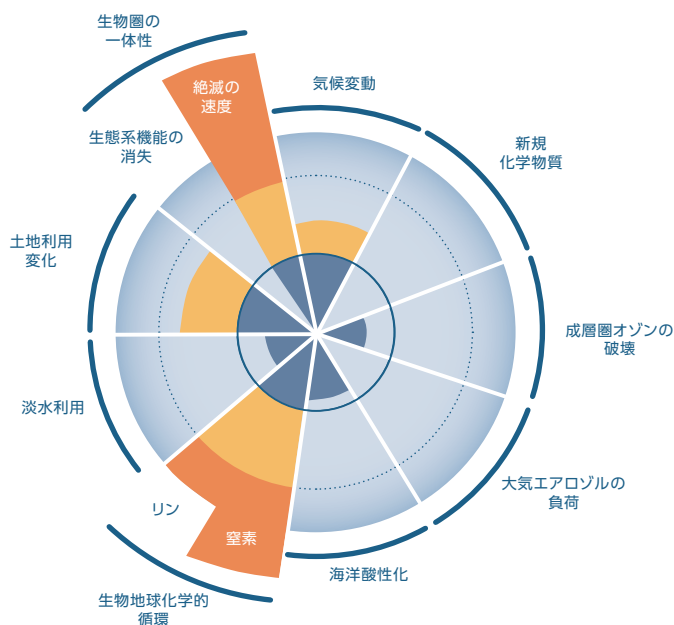
今や企業にとって、「自己設定」した目標値に沿って企業自身の環境負荷を低減するだけでは不十分です。ロレアルのコミットメントとは、「地球の限界」、つまり環境科学において地球が耐え得ると定義される限界に配慮して事業活動を展開することです。私たちが必要とするものと、限りある地球資源の保全との折り合いをつけるために、私たちは目標の水準を引き上げ、新たな内部変革プログラムを実施しようとしています。

従来のプログラムとは異なり、新しいコミットメントはロレアルによる直接的影響にのみ注力するものではありません。ロレアルグループのサプライヤーの活動や消費者による製品使用に関連する影響も含めた、広範囲にわたる間接的影響にも取り組んでいきます。

ロレアルグループの2030年に向けた新しい目標はいずれも、SBT(科学的な根拠に基づく目標)に基づいて設定されました。SBTとは、低炭素経済への自主的移行を約束し、最新の気候科学が定義する1.5°C目標達成の要件に一致する目標を設定するよう、企業に奨励するものです。SBTの方法論は、気候関連の課題に関する共通の国際基準を

設定するために開発されました。ロレアルでは、水、生物多様性、天然資源に関する目標を定義する際に、同様のアプローチを採用することにしました。つまり、これらの目標すべてを、科学分野の専門家の要請と地球の限界を考慮して設定したのです。

「地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)」という概念の理解



2009年、ストックホルム・レジリエンス・センターが、9項目の明確な「地球の限界」を提唱しました。以来、この概念は国連と世界の科学コミュニティに支持されています。「地球の限界」を超えた場合、人類発展の場としてふさわしい地球の環境が、深刻に損なわれてしまいます。驚くべきことに、これらの限界のうちの3つ、たとえば生物多様性の境界はすでに超えており、その影響は受粉昆虫の個体群の喪失に認められます。そして現在、さらなる3つの限界が超えられようとしています。制限内に留まること、つまり「地球の限界」内の安全な領域に留まることは、今後数十年にわたりすべての人々にとっての緊急の目標であるはずですが。このため、ロレアルはこれらの地球の限界に基づいて、2030年に向けた持続的発展のための目標を定めました。

世界が直面する さまざまな課題の解決への貢献

ここ数年で、企業の担うべき役割に対する期待は劇的に変化しました。

ロレアルでは、単に自社のビジネスモデルを変革するのではなく、より大きな責任を引き受けたいと考えています。ロレアルは、今日のもっとも差し迫った環境および社会的課題に対する解決策の一翼を企業が担えるということ、私たちの新たなサステナビリティプログラムをもって実証したいのです。

このため、生態系の再生と循環型経済の発展に特化したインパクト投資に1億ユーロ、さらに、きわめて脆弱な立

場に置かれた女性たちを支援するための慈善寄付基金に5,000万ユーロを充当します。

サステナブルでインクルーシブな世界を築くためには、社会的または経済的に苦しんでいる人々を支援しなければなりません。しかしながら同時に、気候変動と生物多様性の崩壊を防ぐことへの注力も必要です。気候変動と生物多様性の崩壊は、私たちの生活、社会、そして経済をいっそう深く揺さぶる恐れがあり、その場合に最初に犠牲になるのもまた、女性たちだからです。

戦略の3つの柱

サステナビリティにおけるロレアルの今後の歩みを明確に定義するために、7つの内部有識者検討委員会が2019年4月から活動しています。同委員会は数々の独立研究をまとめ、外部パートナーや市民社会と協働した成果として戦略を定め、負荷低減に関する測定可能かつ期限を定めた目標値を設定しました。この戦略に沿って、ロレアルの内部変革とステークホルダーの変革、さらには切迫した社会的・環境的課題への対応に貢献するための活動を進めていきます。

1

ロレアル自身の 変革

そして地球の
限界への配慮

「地球の限界」を超えてしまうと、人類が安全に活動できる領域が脅かされるだろう、というのが科学界の一致した意見です。

したがってロレアルでは、地球の限界の範囲内で事業活動をおこない、地球が耐えられると環境科学が定義する条件に合わせていくことを約束します。ロレアルのあらゆる活動が気候、水、生物多様性、天然資源に及ぼす影響を抑えるために、具体的な数値目標を設定した新たな内部変革プログラムの実施を決めました。

2

ロレアルのビジネス
エコシステムの強化
よりサステナブルな
世界への移行の支援

私たちの変革プロセスに、顧客、サプライヤー、そして消費者を巻き込んでいくことは、私たちの責務であると考えます。

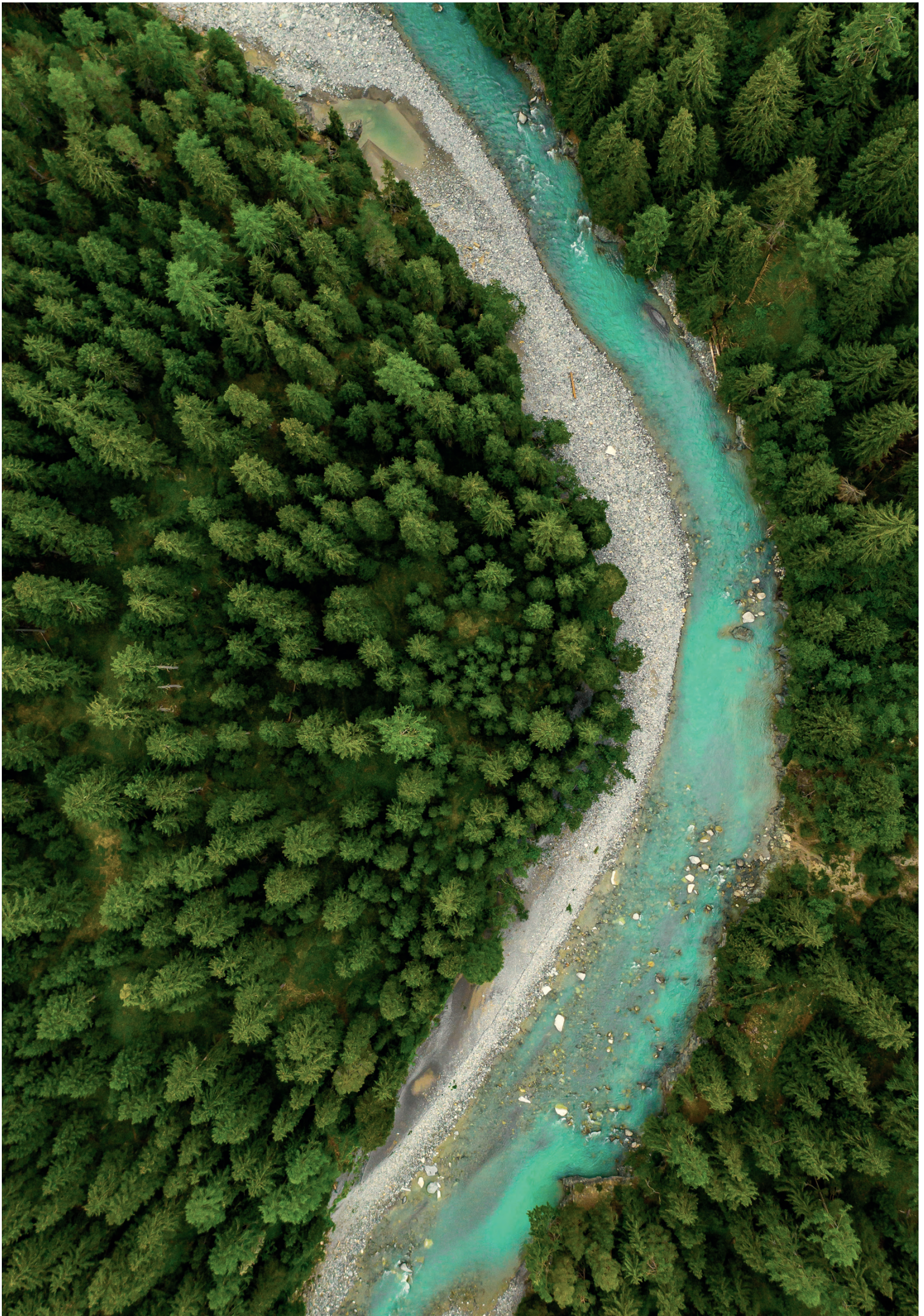
私たちは、サプライヤーのサステナビリティ方針をロレアルグループの方針と同様に意欲的なものとするための新たな取り組みを立ち上げました。また、2030年に向けた重要な目標のひとつとして、ロレアルが関わるコミュニティへのエンパワメントを含めます。さらに、私たちは製品の環境・社会的影響を表示する独自の表示システムを立ち上げました。これは消費者がそれぞれの価値観に従いつつ、情報に基づいて製品を選び、購入できるようにするものです。

3

世界が直面する
さまざまな課題の
解決への貢献
切迫した社会的・環境的
ニーズへの対応

ロレアルでは、単に自社のビジネスモデルを変革するのではなく、今日のもっとも差し迫った社会的・環境的な課題への対処に貢献したいと考えます。

社会への還元を果たすとともに、企業が解決策の一翼を担えるということを実証するために、ロレアルは行動します。私たちは生態系の再生と循環型経済の発展に特化したインパクト投資に1億ユーロ、さらに、きわめて脆弱な立場に置かれた女性たちを支援するための慈善寄付基金に5,000万ユーロを充当します。



ロレアル自身の変革

ロレアルの内部変革プロセスを進化させ、ロレアルの事業活動を限りある地球資源に配慮したものとするために、私たちは気候、水、生物多様性、天然資源についての2030年に向けた目標を、科学分野の専門家の要請と地球の限界を考慮して設定しました。

気候変動への対策

2030年に向けたロレアルのインクルーシブな気候変動目標は、地球温暖化を1.5°Cに抑制するシナリオに合わせて温室効果ガス排出量を調整することを目指すものです。すなわちロレアルでは、温室効果ガスの総排出量(スコープ1、2および3)50%削減を目標とします。この目標を達成すべく、私たちは事業活動のあらゆる側面について数値目標を設定しました。そこには生産・流通施設の他に原材料サプライチェーンと、最終消費者の製品使用に関連する間接的な影響も含めています。

- 2025年までに、エネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの100%使用によって、すべての拠点でカーボンニュートラルを達成します。
- 2030年までに、消費者がロレアル製品を使用する際に排出される温室効果ガスを、イノベーションによって2016年比で平均25%削減(製品単位)します。
- 2030年までに、製品輸送に関わる温室効果ガスの排出量を2016年比で平均50%削減(製品単位)します。
- 2030年までに、ロレアルの戦略的サプライヤーは、直接排出量(スコープ1および2)を2016年比で50%削減(絶対量)します。

サステナブルな水資源管理

私たちは長年にわたり、全バリューチェーンにわたって、またロレアルがサービスを提供し事業活動をおこなう流域とコミュニティの全域において、高い水質と持続可能な水量の確保に取り組んできました。水という貴重な資源を保全する取り組みにおいては、製品のイノベーションと評価とが重要な役割を果たします。

- 2030年までに、独自の環境テストプラットフォームを使って全処方方を評価し、陸水、沿岸水を問わずすべての水界生態系に配慮した処方方となるようにします。
- 2030年までに、消費者がロレアル製品を使用する際に消費される水の量を、イノベーションによって2016年比で平均25%削減(製品単位)します。
- 2030年には、ロレアルの生産工程で使われる水の100%がループでリサイクルまたは再利用されます。
- 2030年には、すべての戦略的サプライヤーが、各々の事業をおこなう地域において、サステナブルな方法で水を使用するようにします。

生物多様性への配慮

今、地球は6度目の大量絶滅に向かっています。とりわけ農業による自然生態系の破壊が、気候変動に対する地球とコミュニティの回復力を脅かしています。

ロレアルの原材料の大部分が再生可能な資源から生まれたものであり、主に植物由来です。約350種の植物に由来する、およそ1,600の原材料を使用しているロレアルグループにとって、生物多様性はイノベーションの源泉としての重要性をますます高めています。このため、私たちはサステナブルかつ責任ある方法での成分調達に取り組んでいます。

- 2030年までに、処方とパッケージ材料に使われるバイオ由来成分の100%を、森林伐採のリスクのないサステナブルな調達源からのものとし、トレーサビリティを保証します。
- 自然の生息環境への負荷を抑制するため、成分調達に不可欠な土地の占有面積を、2019年比で増加させることなく2030年まで維持することを約束します。
- さらに、2030年までにロレアルの生産拠点および運営する建物の100%を、生物多様性に対して2019年よりも良い影響をもたらすものにします。

天然資源の保全

あらゆる人間の活動と経済活動の例にもれず、ロレアルの活動においても天然資源の消費は避けられません。こうした消費を管理し測定するために、リサイクルを可能にし、循環型経済の発展を促進する解決策を見出すことが必要です。

- 2030年までに、ロレアルの処方に使用する成分の95%を、枯渇のおそれのないミネラルまたは循環型プロセスから得られるバイオ由来の成分へと切り替えます。
- 2030年までに、パッケージに使用するプラスチックの100%を、リサイクルされた、もしくはバイオベースプラスチックに切り替えます(2025年までに50%の切り替えを達成します)。
- 2030年までに、製品に使用するパッケージの量を2019年比で20%削減(原単位)します。
- 2025年までに、プラスチック製パッケージの100%を詰め替え可能、再利用可能、リサイクル可能、あるいは堆肥化可能なものに切り替えます。
- 2025年までに、新たに制作する店頭什器の100%が、EOL(使用后)管理についての循環型経済の原則を考慮したエコデザイン(環境配慮型設計)となり、新規・改装直営店の100%がサステナビリティの原則に従って設計、建設されるようにします。
- 2030年までに、ロレアルの事業拠点で発生する廃棄物の100%をリサイクルまたは再利用します。



ロレアルの ビジネスエコシステムの強化

私たちの変革プロセスに、消費者、サプライヤー、そしてロレアルの関わるコミュニティの人々を巻き込み、より持続可能な世界へと人々の移行を促進することは、私たちの責務であると考えます。このために私たちは具体的な数値目標を設定しました。

よりインクルーシブな社会の建設

ロレアルは、より持続可能な世界を築いていくためには公平性とインクルーシブ性(包摂性)が必要不可欠であると強く信じます。

模範的な先駆者となるべく努力を続けるロレアルは、社会課題に関してもっとも進歩的な方針と実績を持つ企業として、すでに高い評価を得ています。しかしながら、私たちはさらに大きな責任を感じています。私たちはビジネスパートナーとの積極的な協力により、パートナー企業のサステナビリティパフォーマンスを改善するとともに、ロレアルと同様の厳しい方針を持てるよう、支援しています。またサプライヤーの皆さまとは、ソリダリティ・ソーシングプログラムの展開において、力を合わせて取り組んでいます。同プログラムは、雇用市場から排除されてしまいがちな人々に対して雇用機会と持続可能な収入を提供するサプライヤーに、ロレアルグループのグローバル購買の一定割合を振り向けるというものです。その対象には、ロレアルが事業活動を展開するすべての地域で、環境的・経済的に恵まれない方々を雇用する企業や、大企業との国際的取引の機会を得づら企業、小規模企業者も含まれます。

ロレアルグループの各ブランドもまた行動を起こし、その影響力を使って今日のさまざまな社会課題に関する取引先、顧客、消費者の意識を高めます。

2030年までに、

- ロレアルの戦略的サプライヤーの従業員の100%に対し、少なくとも、本人とその扶養家族の基本的なニーズを満たすために必要最低限の生活費が支払われることを保証します。その金額は、適切な事例に基づいて算出されます。
- 社会的・経済的に恵まれない10万人の人々が、新たに就業機会を得ることができるよう支援します。
- 300万人の人々にロレアルブランドの社会貢献プログラムを提供します。

消費者が行動を起こせるように するための情報提供

ロレアルの抜本的変革のプロセスと並行して、ロレアルの消費者に対し、共に行動を起こすよう呼びかけ、促す活動を進めています。より多くを知ることが、より良い行動につながるからです。

サステナビリティを達成するためには、製品がもたらす影響を正確に評価し、その影響を低減すべく行動することが重要です。さらに、その製品情報を消費者に公開し、消費者が情報に基づいたサステナブルな選択をできるようにすることも必要です。

環境保護に役買することができるのであれば、消費者は自ら進んでサステナブルな製品を選ぶでしょう。こうした消費者の選択のためには、透明性が重要です。そのためにロレアルでは「Product Impact Labelling System (製品の環境・社会的影響表示システム)」を開発し、消費者が購入する製品の環境および社会的影響についての情報を提供することにしました。

消費者に明確で役に立つ情報を提供するため、この環境および社会的影響表示システムでは「A」から「E」までのスコアが表示されます。「A」スコアは、その製品が環境影響の観点から「最高クラス」であることを意味します。スコアには、各製品のライフサイクルの全段階について計測された14の地球への影響因子（温室効果ガスの排出量、水資源の枯渇、海洋の酸性化、生物多様性への影響など）が考慮されています。このため、スコアからは各製品がもたらす影響の見通しを、正確に読み取ることができます。

ラベリングには、スコア情報に加えて各製品の製造条件の詳細や容器の属性も表示されます。さらに、製品の社会的影響に関する重要な情報も表示されます。たとえば、原材料とパッケージのサプライヤーが労働基準に関する国連の基本的原則を遵守しているかどうかについての情報、また、製品に貢献したサプライヤーのうちインクルージョン（社会的包摂）に取り組んでいるサプライヤーの数（存在する場合）などです。



この方法は独立した科学分野の専門家によって承認されており、データは独立監査法人であるビューローベリタスによって検証されています。

- 2022年までに、洗い流すタイプのロレアルグループの製品すべて¹に、この表示システムを適用します。
- 2030年までに、ロレアル製品の100%がエコデザイン化されます²。

1. トラベルサイズを除きます。

2. ロレアルでは、製品の開発または改良の際には必ず、社内のパッケージチームとリサーチチームが開発した独自のツールSPOT（持続可能な製品最適化ツール）を使ってさまざまな設計の可能性を試算し、製品が環境と社会に与える影響を評価するとともに製品のあらゆる側面にわたり影響の低減を数値化しています。

世界が直面する さまざまな課題 解決への貢献

ロレアルでは長年にわたり、社会に前向きに貢献すべく取り組んできました。今、その努力を加速させる 때가 来ました。私たちは、企業は世界が直面するさまざまな課題に対する解決策の一翼を担えるということを実証したいと考えます。そこで、切迫した社会的・環境的ニーズに対処するための資金として1億5,000万ユーロを充当します。

きわめて脆弱な立場にある女性たちの支援

新型コロナウイルスの感染拡大が引き起こした危機は既存の多くの不平等を悪化させ、危機の前からすでに社会的・経済的に苦しんでいた人々、または虐待被害者であった人々、特に女性たちに壊滅的な影響を及ぼしています。

女性の権利の擁護に長年取り組んできたロレアルは、以下の活動に取り組む各国の組織や地域の慈善団体を支援するために、5,000万ユーロの慈善寄付基金を創設します。

- 女性が貧困から脱出するための支援
- 女性の社会進出と就労の支援
- 難民女性への緊急支援
- 障がいを持つ女性への緊急支援
- 女性に対する家庭内暴力や性暴力の防止と被害者支援

「環境と生物多様性保全へのロレアルの取り組みを再確認するとともに、女性たちが直面している社会的危機への対処に貢献したいと願っています。この2つの目標には、ロレアルグループの価値観とその歴史的なコミットメントが反映されています。」

ジャン- ポール・アゴン
ロレアル会長 兼 最高経営責任者 (CEO)

自然再生への貢献

負荷を低減することは必要ですが、それだけでは不十分です。ロレアルでは、すでに損なわれてしまった自然を修復する必要があると考えます。この問題への取り組みを支援するため、ロレアルのバリューチェーン全体にわたる生物多様性への負荷低減の取り組みをさらに一歩進めて、自然生態系の修復に貢献したいと考えます。このため、ロレアルでは「自然再生のためのロレアル基金」を創設しました。

これは5,000万ユーロのインパクト投資基金です。基金は社会・環境へのポジティブな影響と経済的利益を同時に生み出しながら、劣化した海洋や陸生の生息環境回復プロジェクトを支援することを目指します。具体的には、劣化した土地の回復、マングローブの森の再生、海域や森林の回復を支援するプロジェクト等が基金のポートフォリオに含まれます。

これらのプロジェクトでは、生態系の回復の他に、サステナブルな生計手段（サステナブルな農業や漁業、エコツーリズムや炭

素クレジットの販売など）の開発を通して周辺コミュニティの社会的ニーズへの対応にも取り組んでいきます。人々がより健康的な環境のなかで暮らし、新たな経済的機会を享受し、気候変動に対する回復力を高められるよう支援します。

- 2030年までに、「自然再生のためのロレアル基金」は100万ヘクタールの劣化した生態系の回復を支援します。
- 2030年までに、同基金は1,500万から2,000万トンのCO₂の回収を支援します。
- 数百の雇用機会の創出を目指します。

循環型経済(サーキュラーエコノミー)をさらなる段階へと進化させるためのコミットメント

私たちは、プラスチック汚染の削減という、今日もっとも差し迫った環境課題への緊急対応が必要と認識し、使い捨てプラスチックおよびプラスチック廃棄物の削減に引き続き取り組みます。

ロレアルはこのため、5,000万ユーロの基金を創設し、プラスチック廃棄物のリサイクルと管理における革新的プロジェクトに対して資金提供します。

私たちは打開策を追求します。つまり、革新的かつ責任ある解決策の開発と、循環型経済をさらに促進する新たなビジネスモデルの創出を加速すべく取り組みます。



ロレアルはゼロからはじめているわけではありません

ロレアルは非常に早い時期から、地球環境危機から生じるさまざまな課題に緊急に対処する必要性を認識していました。

事業会社であるロレアルにとって、自社工場や流通センター由来の環境影響への対策は、重要な優先事項であると同時に変革の開始に必要な第一歩であると判断しました。

2019年末までに、ロレアルは工場や流通センターからのCO₂排出量を2005年比で78%削減し、その一方で同期間の生産量は37%増加させました。

ロレアルは2013年、さらに取り組みを進める必要があると認識し、「Sharing Beauty With All—美のすべてを、共に次世代へ」プログラムのもと、具体的かつ明確に定義された目標を設定しました。同プログラムを通じて、ロレアルは生産活動による環境負荷を低減する努力を続ける一方で、中核的な事業活動、つまり化粧品開発に関する取り組みも進めました。2013年から2020年までの期間で、ロレアルはビジネスのあり方を全面的に見直し、よりサステナブルなビジネスモデルへと移行する

とともに、環境負荷を低減し、社会全体へのポジティブな貢献を最大化しました。

2019年には、ロレアルの新製品またはリニューアル製品の85%が、環境に配慮している、もしくは社会的に有益であるように改善されました。また、ソリダリティ・ソーシングプログラムをはじめとする社会的包摂プログラムを通して、90,635人の社会的・経済的に恵まれない人々が働く機会を得られるよう支援をおこないました。

こうした実績が評価された結果、ロレアルは専門家やCDPなどの組織、サプライヤーや同業他社によって、サステナビリティにおけるリーダーとして認知されるに至りました。

ここに紹介するロレアルグループのサステナビリティに向けた旅の第2段階において、私たちは経験と実績をさらに積み上げるとともに、さらなる飛躍の前進を目指していきます。

進捗状況の報告

今、サステナビリティプログラムを、いっそう意欲的な第2段階へと進めるに際して、私たちは取り組むべき課題を認識しています。世界が直面しているさまざまな課題の解決に貢献すべく、できることはすべて実施し、世界規模での取り組みを加速していきます。

私たちは、明確で透明性のある指標を使用して、各目標に対する進捗状況を定期的に報告することを約束します。完璧な達成を待つことなく、取り組みと進捗の状況を社内外に公表していきます。この抜本的な変革を通して、ロレアルグループは業界内において、さらには業界を超えて、変化の促進役となること、またロレアルの消費者とすべての人々が共に行動を起こすよう呼びかけ促していくことを目指します。

L'Oréal for the Future.

ロレアル・フォー・ザ・フューチャー

ロレアルのコミットメント

ロレアル自身の変革

気候

2025年までに、エネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの100%使用によって、すべての拠点でカーボンニュートラルを達成します。

2030年までに、消費者がロレアル製品を使用する際に排出される温室効果ガスを、イノベーションによって2016年比で平均25%削減(製品単位)します。

2030年までに、製品輸送に関わる温室効果ガスの排出量を2016年比で平均50%削減(製品単位)します。

2030年までに、ロレアルの戦略的サプライヤーは、直接排出量(スコープ1および2)を2016年比で50%削減(絶対量)します。

水

2030年までに、独自の環境テストプラットフォームを用いて全処方方を評価し、陸水、沿岸水を問わず、すべての水界生態系に配慮した処方方となるようにします。

2030年までに、消費者がロレアル製品を使用する際に消費する水の量を、イノベーションによって2016年比で平均25%削減(製品単位)します。

2030年には、ロレアルの生産工程で使われる水の100%がグループ内でリサイクルまたは再利用されるようにします。

2030年には、すべての戦略的サプライヤーが、各々の事業地域において、持続可能な方法で水を使用するようにします。

生物多様性

2030年までに、処方とパッケージ材料に使われるバイオ由来成分の100%を、森林伐採のリスクのない持続可能な調達源からのものとし、トレーサビリティを保証します。

2030年まで、成分調達に不可欠な土地の占有面積を、2019年比で増加させることなく維持します。

2030年までに、ロレアルの生産拠点および運営する建物の100%が、生物多様性に対して2019年よりも良い影響をもたらすようにします。

資源

2030年までに、ロレアルの処方に使用する成分の95%を、枯渇のおそれのないミネラルまたは循環型プロセスから得られるバイオ由来の成分へと切り替えます。

2025年までに、プラスチック製パッケージの100%を詰め替え可能、再利用可能、リサイクル可能、あるいは堆肥化可能なものに切り替えます。

2025年までに、新たに制作する店頭什器の100%が、EOL(使用後)管理についての循環型経済の原則を考慮したエコデザイン(環境配慮型設計)となり、新規・改装直営店の100%がサステナビリティの原則に従って設計、建設されるようにします。

2030年までに、ロレアルの事業拠点で発生する廃棄物の100%をリサイクルまたは再利用します。

2030年までに、製品に使用するパッケージの量を2019年比で20%削減(原単位)します。

ロレアルのビジネスエコシステムの強化

2030年までに、ロレアルの戦略的サプライヤーの従業員の100%に対し、少なくとも、本人とその扶養家族の基本的なニーズを満たすために必要最低限の生活費が支払われることを保証します。その金額は、適切な事例に基づいて算出されます。

2030年までに、社会的・経済的に恵まれない10万人の人々が、新たに就業機会を得ることができるよう支援します。

2030年までに、300万人の人々にロレアルブランドの社会貢献プログラム(水へのアクセス、教育お

よび職業訓練へのアクセス)を提供します。

2022年までに、洗い流すタイプのロレアルグループのすべての製品に「製品の環境・社会的影響表示システム」を導入します。

2030年までに、ロレアルグループのすべての製品がエコデザイン化されます。

世界が直面するさまざまな課題の解決への貢献

2023年までに、きわめて脆弱な立場に置かれた女性たちの支援のために5,000万ユーロを出資します。

2030年までに、「自然再生のためのロレアル基金」は100万ヘクタールの劣化した生態系の回復を支援するため5,000万ユーロを出資します。

2030年までに、同基金は1,500万から2,000万トンのCO₂の回収を支援し、数百件の雇用機会を創出します。

2030年までに、循環型経済のさらなる促進に寄与するプロジェクトに5,000万ユーロを出資します。

L'ORÉAL

www.loreal.com